

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス
海外情報

No.31

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月24日
情報ソースの調査日	2020年5月24日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月27日
日本語タイトル	COVID-19 の凝固障害
情報ソース	Cleveland Clinic Journal of Medicine
情報のカテゴリー	研究論文
発信地域	アメリカ
DOI	10.3949/ccjm.87a.ccc024
URL	https://bibgraph.hpcr.jp/abst/pubmed/32409435
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 患者と凝固障害のリスクについて研究された論文である。 ・ COVID-19 患者には、血液検査としてフィブリノーゲンが正常値であったが、D ダイマーの高値（重症者率全体の 60%、軽症者率全体の 43%）を認め、血栓性合併症を引き起こす可能性が高いとされる。 ・ また、重症度と血栓性合併症（微小血管血栓症、静脈血栓塞栓症、肺血栓塞栓症、急性動脈血栓）に相関と死亡率の増加を認めたとの報告がある。 ・ 更に、COVID-19 患者の重症度の指標としての血小板減少症（発生率 4-57%）があり、血小板減少が重篤な疾患や死亡のリスクを高めるとされている。 ・ Covid-19 患者においては、静脈血栓症のリスク軽減や予防が必要である。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ この研究報告では、Covid-19 患者において血栓症のリスクが増大するとされている。今後リハビリテーション介入が積極的に行われるようになった際には二次的障害やリスク管理として認識しておくべき内容である。